



小山高同窓会報

第3号

2020年3月1日

発行

小山高等学校同窓会

印刷 大星印刷(株)

同窓会長挨拶



同窓会会長
船渡川 進

会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より同窓会に對しまして温かなご理解とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。とりわけ一昨年度創立百周年に伴う多くの行事を滞りなく行うことができましたのも会員の皆様のお力添えがあつてことと存じます。この度同窓会では栗田前会長が退任なさり、私、船渡川進が後任を務めさせていただくこととなりました。私は昭和40年度商業科卒で在学中はバスケットボール部に籍を置き、毎日チームメイトと一緒に夢中でボールを追っていました。至らぬ点

が多々あるかとは存じますが、精一杯職責を果たしていく所存でございます。これまでに増したお力添えをお願いいたします。

さて昨年の台風では本校校舎には直接の被害はなかったものの、関係者の中には大きな被害を受けた方々もいらっしゃるのと伺っております。この場をお借りしてお見舞い申し上げます。この台風の際には県内外の多くの同窓生の方々から本校の状況についてのお問い合わせをいただきました。本校を離れた後も本校のことを忘れずにいて下さるお気持ちは何物にも替え難い貴重なものであると存じます。本校でもに学んだ一人ひとりがこのような気持ちを持ち続けていけるような同窓会を挙げ



げて取り組んで参ります。

これからのことに目を向けますと、オリンピックが目前に迫り大会に向けてのムードの高まりを感じます。世界中のアスリートの活躍を思うと、今から楽しみでなりません。その一方で世界情勢の大きな変動やうち続く自然災害など樂觀を許さない時代になりつつあるように思えます。本校も創立以来百年を越える歴史の中で様々な出来事に直面し、それらを乗り越えて参りました。その中で培われた我々が母校の魂を胸に、力を合わせてこの困難な時代を乗り越えていきたいと思ひます。結びに小山高等学校のますますの発展と、皆様のご健勝ご活躍をご祈念申し上げます。

新たな百年に向かって

校長
谷中 郁夫

同窓会員の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。私は、昨年四月より栃木県立小山高等学校長として赴任いたしました谷中郁夫（やなかいくお）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ご承知のとおり、本校は一昨年十一月九日に創立百周年記念式典を盛大に執り行い、県下に名だたる伝統校の仲間入りをいたしました。これもひとえに同窓会員の皆様のお力添えの賜であると、深く感謝しております。

本校は、大正七年（一九一八年）に小山尋常高等小学校、現在の小山第一小学校に併設される形で創立された「小山町立農商補習学校」を始まりとしています。その後、昭和二年に校名を「小山公民実業学校」と改称し、昭和五年には、校舎を現在の地に移転し、同年十一月九日に落成式を挙行了しました。当時の日本経済は、昭和四年の世界恐慌による深刻な打撃を受けており、小山町も予算が逼迫していたため、小山第一尋常高等小学校から独立移転するに当たっては、校舎は新築ではなく、当時の小山第二尋常高等小学校の旧校舎を移転改築することとなりました。この校舎の独立移転を巡っては、本校存続の危機もあったようですが、独立校舎の落成式を挙行了したこの十一月九日は、正に創立記念の日と定めるにふさわしい日であったのだろうと想像できます。

また、第二次世界大戦が終わり新しい学校制度が誕生すると、昭和二十三年（一九四八年）には「小山高等学校」と改称し、

全日制の農業科と商業科が設置されました。実は、この新制高校昇格を巡っても、施設・設備の老朽化や不備等により、一時学校の存続が危ぶまれる状況にあったようです。昭和二十七年に校歌が制定され、昭和三十一年には新校旗が樹立され、昭和三十三年に創立四十周年記念式典を挙行するという運びとなり、ようやく学校の基礎が完成したようです。ちなみに、本校の卒業式は今年度で第七十二回となりますが、これは戦後、新制高等学校としてスタートした昭和二十三年度から数えたものです。

その後本校には、昭和四十七年（一九七二年）に農業系学科が小山園芸高校として分離独立する際、普通科が設置されました。昭和六十三年には商業科から分離するかたちで国際商業科が新設されましたが、平成十年に両科とも閉科となりました。この間、平成八年に英語人文科と数理科学科が新設されましたが、英語人文科は平成二十年に閉科となりました。また、昭和二十五年より地域に多大な貢献をしてきた定時課程も平成十八年に閉課程となり、現在本校は、普通科と数理科学科からなる全日制高校となっています。このように、本校は、度重なる存続の危機を乗り越え、まさに「不屈の歩み」を進めてきました。学科や課程のめまぐるしい変遷も、時代の要請や地域の期待に添えてきた歴史であると言えるでしょう。

私もこれまで、昭和四十七年に制定された「聡・直・剛」の指標と、伝統である文武両道の校風のもと、社会に貢献できる有為な人材の育成を目指し、生徒の自己実現に向けたきめ細かな指導に努めてまいりました。そして、これからも、百年の歴史と伝統を受け継ぎ、新たな百年に向かって、「地域に信頼される学校」「地域に選ばれる学校」を目指し、魅力ある学校づくりに取り組んでまいります。同窓会員の皆様におかれましても、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

不屈の歩みを次の百年へ

PTA会長
増山 敬之

小山高同窓会報発行にあたりましてご挨拶申し上げます。

先ずは、同窓会の皆様には、日頃よりPTA活動に対して、物心両面からご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、旧年中、台風19号により、多大なるご苦勞をされてこられました皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

小山高校は、一昨年、創立百周年を迎えました。大正7年に小山町立農商補習学校として開校され、以後、昭和、平成と激動の時代の節目に地域の要望や期待に的確に応え、現在の歴史を築き上げてきたのだと思います。そういった歴史と伝統ある小山高校へ通う生徒を持つ保護者としても大変光栄に存じます。

小山高校で学ぶ生徒たちは、「聡直剛」や「文武両道」の校風のもと、明確な人生の目標を持ち、諦めずにその目標に挑戦し、更に、時代の変化に対応し新たな目標を目指す。そういった生徒たちばかりです。PTAとしても、生徒一人一人が輝かしい将来を切り拓いていけるよう、子供達の学校での生活を見守っていきたいと思っております。

さて、昨年は、「平成」が終わり、「令和」の新しい時代を迎え、小山高校も創立百一年目という新たな歴史の幕開けとなりました。

我が国が直面する少子高齢化という課題を乗り越えていくため、教育の無償化や待機児童問題の解消など、子育て世代の負担を軽減し、子供を産み、育てやすい環境整備

備が一層求められております。また、AIや情報通信など技術革新のスピードも速く、国際情勢も激しく変化しているため、変化にしっかりと対応していける人材がより求められる時代となりました。

天才理論物理学者であるアルベルト・アインシュタインは、こんなことを言っています。「成功の反対は失敗ではない。挑戦しないこと。」

まさに新しい時代、小山高校の生徒たちには新たな飛躍・活躍を期待しております。また、同窓会の皆様方には、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を申し上げます。

結びになりますが、「不屈の歩みを次の百年へ」小山高校の益々のご発展と同窓会の皆様方のご多幸を心よりお祈り申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



活躍される同窓生



S.53年度卒業
小山高校野球部
後援会
増子 浩司

会員の皆様には、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。創部以来長きに渡り小山高校野球部に対し多大なるご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

小山高校野球部後援会は令和元年に誕生しました。

母校は一昨年創立100周年を迎え、伝統ある野球部は甲子園出場春2回、準優勝1回、夏4回出場、関東大会優勝2回、準優勝1回、他輝かしい戦歴を誇り、OB会の会員数も約1000名になりました。

しかし県立高校を取り巻く環境は大変厳しいものがあり小山高校野球部も学業との両立を図りながら真摯に取り組んでいます。近年結果が残せておりません。OB会も残念ながら現役部員への支援体制が充分では無く、多くの課題を抱えておりました。これを顧み新しい時代に向けて新たな一歩を踏み出した組織を見直しOBだけでなく門戸を広げ、父兄、学校関係者、卒業生、そして地域の皆様、企業等多くの方々の支援を頂きたく小山高校野球部後援会を発足することとさせて頂きました。

そのような趣旨で募集をしたところ会員が約300名、企業20社ほどの賛同を得る事ができました。有り難うございました。心より感謝申し上げます。役員もOB以外にも多数なってもらい顧問には大久保小山市長、谷中校長先生、OBからは前日本大学野球部監督鈴木氏、NPBで大活躍したOBの広澤、飯原両氏の5名に就任して頂き昨年6月9日に大久保市長、谷中校長先生、斎藤監督、現役部員を招き設立総会及び記念パーティを約200名の参加で小山グランドホテルにおいて盛大に開催することができました。

後援会の主たる目的は勿論現役部員への支援ですが、活動を通じて学校、地域に貢献できるようにまた、会員の皆様には会員相互の親睦を図りお役立ちできるようにしていければと思います。伝統校の強みを最大限生かしながら小山高校野球部への物心両面から支援後援会にし、地域に根ざした強い野球部復活の礎になればと考えています。

そして後援会は大きな大きな夢ですが平成15年の夏以来の甲子園出場に向かい突き進んでいきます。同窓会の皆様からの更なるご支援、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。

*入会をお待ちしています。

小山高校野球部後援会HP

[https://www.](https://www.oyamako-baseballclub-supportcommittee.com/)

[oyamako-baseballclub-supportcommittee.com/](https://www.oyamako-baseballclub-supportcommittee.com/)



H.13年度卒業
飯原 誉士

日頃より小山高同窓会会長をはじめ会員の皆様、小山高校の発展にご尽力頂き誠にありがとうございます。また、このような機会を頂いたことを大変光栄です。私は小山高校平成13年の卒業生であります。当時小山高校の野球部監督中田先生(当時の野球部監督)に出会い野球に対する熱い思い、勝負に對し諦めない心、野球選手である前に学生であれという言葉からたくさんのかことを学びました。高校三年の夏、野球部として引退し進学を考えていた際、MLB(メジャーリーグベースボール)のキャンプ招待の話頂き一度はチャレンジしようと思いましたが、9.11事件(アメリカ同時多発テロ事件)が起こり断念せざるを得ない状態になりました。こうした様々な出来事があり白鷗大学に進学が決まり、野球を続けられる道を作ってくださいました。小山高校で学んだことを大学生活にも生かし野球と学業の励み、おかげ様で充実した大学4年間を過ごすことができました。卒業後東京ヤクルトスワローズにドラフト4位で指名を頂き入団をしました。入団が決まった際に、小山高校野球部OB会の皆様から激励会

を開いていただいたことを今でも覚えています。ヤクルトスワローズ時代にはたくさんの応援をしていただき、12年間のプロ野球生活を経験することができました。

私は2018年シーズンより小山に本拠地を構える独立リーグ「栃木ゴールデンブレース」の選手兼任コーチとして小山に戻ってきました。今シーズン(2020年シーズン)も引き続き選手兼任ヘッドコーチとしてプレーをしています。コーチとしての活動もしており、当時中田先生からの指導の中で感じた「愛を持って選手と接することの大切さ」を心にもち、現在選手たちとともに成長し勉強をしております。私自身が小山市内の学校で大学まで過ごしNPB(日本プロ野球機構)に入団できたので一人でも多くの小山出身者のプロ野球選手が排出されることを心から願っております。私の人生の中で小山高校で学んだことや、共に生活をした同級生との思い出が一番心に残っているのが在校生の皆様には、小山高校での三年間を大切に一日一日、学業・スポーツに励んで頂き、この三年間の生活で大きく成長し、世界へ羽ばたいてほしいと思います。最後になりますが、小山高等学校の益々の発展と皆様のご健勝ご活躍を心よりご祈念申し上げます。

活躍される同窓生



S.56年度卒業
橋本時計店
代表
橋本 富雄

会員並びに在校生の皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。創立101年目を迎え誇りに思う本校の同窓会報に寄稿出来る事に感謝申し上げます。私の最初の小山高校と関りは、昭和51年中学1年の時に、春の選抜野球決勝観戦の為、校内に初めて訪れました。校庭には募集で集まった数多くの日本人を祈願する応援団人々と共に、ずらりと並んだ多数の臨時夜行バスへと、父親と乗り込みいざ甲子園へ！高校野球の聖地のグラウンドで日本国中が注目する中、活躍する選手達をアルプススタンドより親子で声を枯らして全力応援する事で、「全国に小山高校ここに在り」と、込み上げる小山高校愛・小山愛が私から芽生えて来た頃でも有りました。

初めての関西・甲子園・深夜バスの旅0泊3日の弾丸ツアー等々で、初物尽くしの刺激的な深く良い体験でした。準優勝パレードでは実家近くを小山駅前から大群衆の中を、監督・選手の雄氏が華やかに手を振り過ぎて行くのにも再度感動し、進学は小山高校へと思いを馳せました。

私の在校3年間は担任先生とクラス替

えが無かったワンチームの珍しい世代で、より深く同窓生との絆が深まったとは思いますが、卒業から39年目を迎えても、在校時代の出来事も昨日のよう to 思え、現在でも担任の先生を囲み同窓生達とは年数回は、会食などの交流を続けています。在校生の皆様にはこの多感な時期の大切な3年間を、先生や同窓生と学業・部活動・課外活動・イベントなどを通じて、喜怒哀楽を一緒に体験し、一人でも多くの人と人の絆を結びまして、小山市出身の方はもちろん市外から通学の方も第2の故郷としまして、小高愛・小山愛をも深めては如何でしょうか？

私は本校を卒業してからしばらく小山を離れ、都内で仕事をしましたが、家業を継ぐ為に小山に帰ってきてからは、直ぐに商店街・自治会・夏祭り・イベント・消防団などのボランティアを地域の方々と共に交流し活動させて頂いて、絆を深め小山愛を継続しております。

近年は急速にSNSでの人と人の交流も多く便利にも成った事に否定はしませんが、多感な時期の在校中での、人と人の触れ合いの中で交流した対面での体験は、大切な一生の宝として残り、必ず息づく事と思いますので、今を思いっきり悔いなく楽しんで、半世紀後でも絆で結ばれた大切な仲間達と触れ合っていられまう様に祈願致します。



H.8年度卒業
割烹たる池
五十畑 貴之

在校生の皆さんへ

自分の高校時代は、自由な校風の下で、のびのびと過ごさせていたいただいたという印象です。勉強に励むのも自由、部活に励むのも自由という中で、私は周りに助けられながら、何とか勉強を乗り越えていました。

もちろん、先生に怒られることもあり、笑いあり涙ありの生活でしたが、友人にも恵まれ、『小山高校に入学して楽しかった』という思いでいっぱいでした。

現在は『割烹たる池』というところで、家族と一緒に仕事をしています。仕事は日本料理の調理師です。父親が経営する料理屋で、今風にあったやり方を試行錯誤しながら、お客様が喜んでくれることを考えながらやっています。

私は高校を出て、東京に修行に出ました。初めは右も左も分からず、毎日怒られながら仕事を覚えしました。仕事は朝早く夜遅くまで大変でしたが、仕事を覚えられていくことは日々達成感を感じとても楽しかったです。

その中でも印象に残っていることはふぐ免許を取ったときのことです。

と筆記試験からなります。

修行中の身の為、通常の仕事の終わった後の時間や休日を筆記試験の勉強や実技

の練習にあてていました。

実技に関しては、ふぐは普通の魚と違っておろし方が異なり、毒もあるので細心の注意をはらっておろさなければなりません。でも基本的に『見て覚える』ことが中心のため、時間を作っては早朝から築地まで足を運び、中卸業者の方のふぐのおろし方を見て勉強したり、店の先輩に教えていただいたりしました。また築地の除毒所という東京都で運営しているふぐ専用の練習場でふぐをおろす練習をしたりもしました。

また仕事ができるようになってくると、任される仕事が増えていくことも嬉しい事のひとつでした。中でも『煮方』という煮物などの味付けを担当する持ち場になったときには、その店の『顔』となる味付けが任されるということ、今までの修行が実を結んだと喜びもひとしおでした。

頑張れば頑張った分、自分に返ってくるので仕事を頑張れたと思います。高校は、自分で自分が何を頑張るかを、決められる場所だと思います。先生たちが全てを管理してくれるのではなく、自分たちで『今何を頑張るべきか』を考え、実践していける場所です。

自分で苦労すればするだけ、達成感を感じられますので、友人とともに問題を乗り越えることで絆も強くなると思います。自分で自分のやりたいことを決めて、自分の限界に挑戦してみてください。

何はともあれ、割烹たる池に来て、おとんだ食でも食べに来てください。

2018年11月9日の創立100周年記念式典で発刊された「小山高百年誌」に、植村様より寄稿していただいた「100年を創りあげた人々」の寄稿文が編集委員の手違いにより掲載されませんでした。

この場をお借りして深くお詫び申し上げます。この機会に、当時の寄稿文を掲載させていただきます。

恩師への思い



S.55年度卒業
小山市議会議員
植村 一

小山高等学校が創立100周年を迎えられますこと、心からお祝いを申し上げます。歴代の校長先生をはじめとする教職員の皆さま、PTA、そして地域の皆さま方のご尽力に深く感謝申し上げますとともに、記念事業に携わられた全ての皆さま方に感謝の意を表したいと思います。

私は、昭和55年度卒業の植村一と申します。現在は、小山市議会議員を務めさせていただきます。

私が小山高校への進路を決めた理由は、私が中学2年生の時、昭和51年春の選抜甲子園大会で、小山高校が準優勝を果たし、全国的に有名な高校になっていたということ、そして、何よりも自宅から一番近い学校であったということです。

入学してみると、私のまわりには、当時人気のあった野球部に入り甲子園を目指して練習に励む同級生（広沢克実さんもその一人です）などがたくさんいたり、また、他のクラブ活動や勉学に精を出す同級生たちもたくさんいました。とにかく、同級生たちは皆、目標をもって楽しく高校生活を送っているように見えました。しかし、単純な理由で高校に入学した私は、他の同級生たちと同じようにバイクの免許を取って一緒に遊ぶこともなければ、学校の部活動や勉学に励むこともなく、平凡で目立たぬ高校生活を送っていたように思います。

しかし、こんな私に、転機が訪れたのは高校3年生の時でした。私の家庭は私を大学に行かせるほど余裕がなかったたので、私は卒業後すぐに就職するつもりでいました。ところが、担任の石川学先生が「お前は進学して勉強したほうがいい。この大学にチャレンジしてみろ！」と私を叱咤激励し、大学を紹介してくださいました。当時の私は、先生の言うことは素直に聞くタイプだったので、私はそのように決断したのです。私の頑固な父はなかなか納得してくれませんでした。しかし、そういった父を最後まで説得してくださった石川学先生の姿が今でも記憶に残っています。受験の結果は、無事大学に合格することができました。そして大学卒業後、私は金融機関に就職し、その後県議会議員秘書を経て、平成23年より小山市議会議員として、社会に貢献するための活動をしております。

今では、小山高校もスポーツの分野ばか

りでなく、勉学においても私たちの時代よりもレベルアップした進学校となり、私たち卒業生を喜ばせてくれるような活躍をしているようであります。

今、振り返れば、小山高校に入学し、石川学先生と出会えたことが、私の人生を決めてくれたような気がします。ですから、私にとって小山高校は、感謝してもしきれないほどの重要な場所であります。

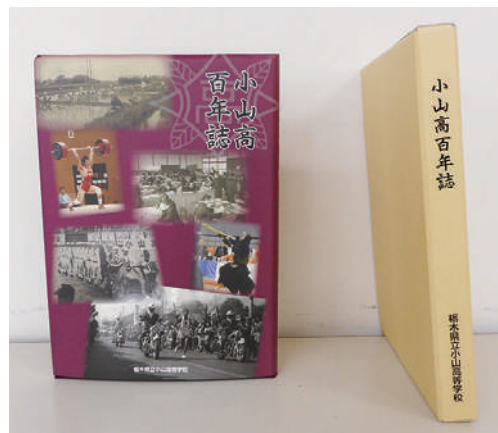
最後になりましたが、小山高等学校が、創立100周年を機に今後さらに充実発展されますよう心からご祈念申し上げます。

平成30年度 栃木県立小山高等学校同窓会会計決算書

収入額 3,916,722円 支出額 1,305,880円 差引残額 2,610,842円

収入の部 (単位:円)				
科 目	予算額	決算額	差 引	摘 要
繰越金	1,601,211	1,601,211	0	前年度繰越金
会費	2,300,000	2,270,000	△ 30,000	10,000円×227名
借入金	3,000,000	0	△ 3,000,000	甲子園出場後援会資金より(H29.11.17承認)
雑収入	789	45,511	44,722	預金利息、同窓会名簿売上
合 計	6,902,000	3,916,722	△ 2,985,278	

支出の部 (単位:円)				
科 目	予算額	決算額	差 引	摘 要
会議費	315,000	187,018	127,982	総会、役員会等
通信運搬費	20,000	14,374	5,626	切手、はがき等
印刷製本費	300,000	0	300,000	同窓会報印刷代
卒業記念品	250,000	174,064	75,936	卒業記念品(証書ホルダー)
旅費	70,000	0	70,000	研修視察費用
渉外費	85,000	28,525	56,475	対外的渉外費用
支部助成費	30,000	30,000	0	清山会助成
研修費	0	0	0	研修旅行
入会式費	60,000	19,232	40,768	入会式費用
進学助成費	100,000	77,760	22,240	進路指導助成
競技出場補助費	250,000	88,000	162,000	関東大会以上出場生徒助成金
創立記念助成費	350,000	322,047	27,953	創立記念マラソン大会
慶弔費	280,000	73,000	207,000	会員の慶弔、餞別
事務補助費	150,000	140,000	10,000	事務補助
100周年記念事業費	3,000,000	0	3,000,000	100周年記念事業費へ充当なし
特別事業費	1,000,000	0	1,000,000	甲子園出場後援会資金へ返済分なし
予備費	642,000	151,860	490,140	教育活動のため物資等の購入
合 計	6,902,000	1,305,880	5,596,120	



ようこそ小山高校HPへ

栃木県立小山高等学校
～小山高校は2018年に創立100周年を迎えました～

〒323-0028 栃木県小山市若木町2-8-51 TEL 0285-22-0296

クリックすると校章が飛びます → 小山高校校章

最新トピック②
数理科学
国公立大 7名:合格率 88%
私立大 20名:合格率 100%
課題研究実感が
入試で高評価

100th
栃木県立小山高等学校

学校案内
学習指導部
進路指導
数理科学科
部活動紹介
書類関係
100周年記念事業
保健室より
1日体験学習について
部活動方針等
同窓会 ← クリック!

QRコード

携帯電話・スマートフォン
からアクセスできます

小山高校HPに同窓会のページが出来ました。第2号もダウンロードできます。ぜひご覧下さい。

同窓会報創刊号と



お願い③

「小山高百年誌」の在庫がございません。購入をご希望の方は、事務局までご連絡ください。

お願い②

小高の歴史、過程や科学の変遷、部活動の栄光の記録など集積したアニメサリールホールが百周年を記念して本校に整備されました。展示していただけるものがありましたら、事務局までご連絡ください。

お願い①

今回の第三号より、「活躍される同窓生」というコーナーを設け、同窓生の近況や様々な情報を掲載し、小山高同窓会報を年一回発行していきたいと考えております。寄稿していただける方がいらしたら、ぜひ、自薦他薦問いませんので事務局までご連絡ください。

お知らせ

同窓会事務局から

今年度の同窓会総会

日時 二〇二〇年五月十六日(土)午後二時
場所 小山高校学習室2(2階)

同窓生は誰でも出席できます。総会終了後、懇親会も準備しております。皆さまお誘い合わせの上ご出席ください。

若い世代の同窓生の出席も大歓迎です。

お願い①

小山高校 平成31年度 同窓会役員名簿 (R1.5.18)

氏名	役職
五味 茂	顧問
石崎 進	顧問
谷中 郁夫	顧問 校長
栗田 城	名誉会長
船渡川 進	会長
山本 幸男	副会長
滝沢 洋子	副会長
岩崎 晴一	副会長
小堀 順子	副会長
菱沼 英子	副会長
阿久津 宣明	副会長 清山会
谷 憲	副会長 教頭
阿久津 如子	副会長 教頭
小林 敏明	会計
大橋 文男	会計
山田 均	会計 事務長
植村 一	庶務
赤荻 秀夫	庶務
渡辺 勉	庶務
鈴木 良弘	監事
山中 利一	監事
秋山 静男	監事
和久井 明	事務局
津布樂 一樹	事務局
小藤 安正	事務局
高森 輝和	事務局
赤石 千里	事務局
佐々木 美月	事務局
廻谷 真帆	事務局
坂井 梨恵	事務局

編集後記

先日、学校に行く機会がありました。

玄関を入るとすぐに元気な声で「コンニチハ」と声をかけられました。孫みたいな若い後輩とふれ合えるのはとても楽しいし、うれしいもんです。小山高校も100周年を無事に御祝できて新たな未来に向かって行こうとしています。

同窓会も又、一から新たに始めようと言うことで、ホームページを立ち上げたり、京浜地区に、何年か前まであった支部を復活してもらうにはどうしたらいいかなどと色々な話し合いをしています。今は、同窓会報も3号になり、多くの会員の中には、色々な面で活躍している方もたくさんいらっしゃるのので原稿をお願いして、シリーズとして紹介して行きたいと思っています。

今後とも会員の皆様、相互のお役に立てる様な会報にしていきたいと思っておりますので、多くの情報をお待ちしております。

小山高等学校同窓会事務局

〒323-0002-8
栃木県小山市若木町2-8-51
TEL 0285-122-10236

(菱沼英子)